

原発事故が起きた



15万人以上が避難した



大量の放射能が放出された



管理区域 (使用施設)



飲食、宿泊不可
物品持ち出し禁止
18歳未満就労禁止

そして今 事故は収束せず、汚染は広がっている

広島原爆168発分
セシウム137 2011年8月 政府発表



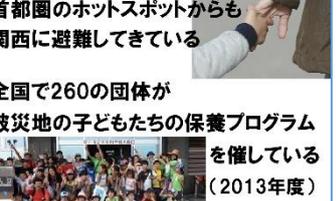
さらに
増え続ける汚染水 打つ手なし

そして今 高汚染地帯に多くの人が暮らしている



**そして今 福島だけでなく
首都圏のホットスポットからも
関西に避難してきている**

全国で260の団体が
被災地の子どもたちの保養プログラム
を催している
(2013年度)
市民研通信第28号より



これから 起こること...???

フクシマの25年前 今から約30年前
チェルノブイリで原発事故が起こった

年を追うごとに
健康な子は減り
病気が子が増えてきた

78%の子どもの慢性疾患
ウクライナ政府報告書(2011年)



病気の花束

子どもたちに何気ない病害



体育の授業3/4が要配慮

疲れやすく授業時間短縮
宿題や学力テストの廃止



放射線管理区域にしなければならぬ汚染が宮城県南部から東京都の一部にまで広がっている。



明らかなこと 放射能は体に良くない 事故後、放射線量は格段に高くなった
40億年前、地球上の放射線が減少して、生命は誕生することができた。生きものと放射能は相いれない。(小出裕章)

不確かなこと これからの健康被害

放射線はDNA(遺伝情報)を切断する

放射線 DNA二重鎖切断

自分は健康であっても、自分の子や孫、世代を渡って深刻な影響を及ぼすかもしれない。
福島県民 放射性物質「不安」73% (2015年3月 朝日新聞社と福島放送調査)

低線量長期被ばく

除染作業中



除染土



室内砂場



保育園や幼稚園での外遊びが1日1時間とか制限
母子ともにストレスが他県に比べてかなり高い

甲状腺検査

原発事故後、産地を気にする人が増え、40カ国以上が日本の食品を輸入停止や検査強化している

関西でも…生協などが放射能自主検査を実施 市民放射能測定所がある

全国に…子どもたちを放射能から守る全国ネットワークがある

食べ物からの内部被ばく

ウクライナでは…病気・障害を抱えている子ども15万人対象に国費で3週間の保養を実施している

資料提供/お問い合わせ 「Save life from nukes」で検索